

三浦肆玖樓・第5代学長の頌徳碑建立

東京農大の第5代学長、三浦肆玖樓氏（しくろう、1890-1961）、の頌徳碑が、出身地の島根県浜田市古市場に建てられ、10月3日除幕式が行われた。

三浦氏は、1917年（大正6年）東京農大本科卒。会社勤めを経て、母校で教鞭を執り、1959年（昭和34年）から2年間、同大理事長、学長、短大学長を兼任した。この間、世田谷キャンパスの整備、厚木の新農場（現、厚木キャンパス）建設などを行った。

石碑建立は、同大校友会島根県支部（今岡一郎支部長）が中心となって進めてきた。碑銘は同大松田藤四郎理事長の揮毫による。除幕式には、小澤寅男常務理事、豊原秀和副学長らが出席した。



三浦・第5代学長とその頌徳碑



タイ農業概観 持続的農業開発のモデルを求めて 小金丸梅夫 著



東京農大農業拓殖学科卒の著者は、JICA職員として30年間にわたって中南米地域とアフリカ地域の国際協力最前線で、農業開発協力を携わってきた。

タイでは熱帯果樹栽培農家で自ら農業実習を体験するなど、農村・農業事情を詳細に調べた。他の途上国に比べると、タイの農業は

多様化・多角化が進み、とくに熱帯果樹栽培は世界最高レベルにあるという。他の途上国の農業開発に、本書は貴重な指導書になるだろう。加えて、これから農業分野で国際協力で活躍したいと考えている若者たちや、タイに興味を持つ人々の参考になればと、著者は願っている。

（東京農大出版会 定価2,940円）

宇宙飛行士も食した機能性果樹 オブレピーハの栽培

梅室英夫・淡輪 俊 監修・編
N.V.Mikhaylova 著
Ekaterina Tatarenko 訳



オブレピーハは、主にロシアの西シベリア地方南部で自生、栽培されている高機能性作物だ。豊富な果実は健康を維持、増進させる重要な成分を含有している。

さらに、1940年代には薬用効果があることがわかり、医薬品としても脚光を浴びている。

本書は、日本に導入する手引きとして、ロシアの専門家による長年の研究論文を翻訳、紹介している。日本にも栽培地があるのではないかと、編者は期待している。

梅室氏は、元東京農大准教授、NPO法人環境教育推進協議会農活研究所長、淡輪氏は、財団法人進化生物学研究所理事長。

（東京農大出版会 定価2,940円）